

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立奥中学校	学校 No.	6 1
<p>1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)</p> <p>本校では、「地道徹底を心がけ、自立・貢献できる生徒の育成」を教育目標とし、生徒の内面に根ざした豊かな心の育成を目指し、さまざまな取り組みを重ねている。「自立貢献・地道徹底」を合言葉とし、社会福祉教育においても体験活動を重視する学習を進め、生き生きと活動し、社会貢献の喜びを感じられる生徒の育成を目指してきた。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)</p> <p>(1) 一人一鉢運動</p> <p>緑化委員が中心となって、自然や動植物を愛護し、自然環境を大切にすることを目的に、一人一鉢運動を行った。11月末に、一人ひとりがパンジーの苗を選び、自分で鉢へ土を入れ、家庭へ持ち帰った後、水やりなどの手入れをしながら花を育てた。【資料1】そして、再び学校へ持参し、卒業式及び入学式の会場を飾り付けるために使用した。花を育てることに加え、自らの手で育てた花が、式を彩る様子を見ることで、豊かな心の成長につながる取り組みになったと感じている。</p> <p>(2) エコキャップ運動</p> <p>福祉委員が中心となって、ペットボトルキャップ回収を行った。その際、昇降口の靴箱付近に学年ごとの回収BOXを設置し、一か月毎に集計をするなど、多くの生徒に協力してもらえるように工夫した【資料2】。また、ポスターを作製したり、給食の時間中に全校放送を通して、定期的な呼びかけを行ったりすることで、約7,1kg分を回収することができた。職員玄関や職員室にもそれぞれ回収BOXを設置したことも、活動内容の周知や、ペットボトルキャップの回収の両面において、効果的であったと感じている。そして、エコキャップ推進協会を通して、ポリオワクチンの購入に役立てた。</p> <p>(3) 募金活動</p> <p>緑化委員会が中心となって行った「緑の募金」、福祉委員会が中心となって行った「赤い羽根共同募金」では、積極的な活動が展開された【資料3】。各委員会の生徒による学級での趣旨説明や給食時の放送を利用した協力の呼びかけや各日にちの結果報告、ポスターの貼りだしなどに取り組んだ。各募金活動は3日間で、多くの善意が集まった。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、これまで取り組んできた「福祉実践教室」「青少年ボランティア福祉体験学習」「2年生職場体験学習」「奥町クリーン作戦」など、学校外の方たちと関わりながら取り組む活動を実施できなかった。その中でも、今だからこそ改めて力になれることを考え、今出来ること福祉活動に対して丁寧に取り組んだ。エコキャップ活動や募金活動では、使い道や結果などを報告することで、福祉に対する意識や貢献できた喜びを感じることができ、その次の福祉活動につながっていくのではないかと感じた。今後も地域の方々との触れ合いを大切にしながら、福祉、ボランティアに対する生徒の気持ちを大きく育てる体験活動の場を設定していきたい。</p>			



【資料1】

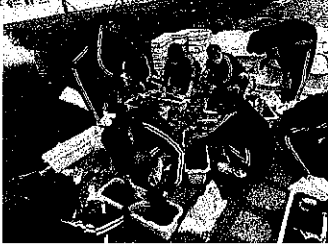
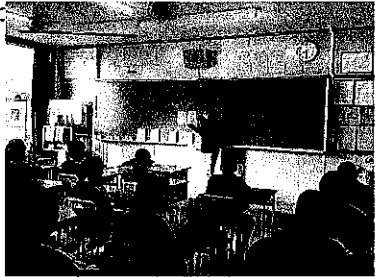


【資料2】

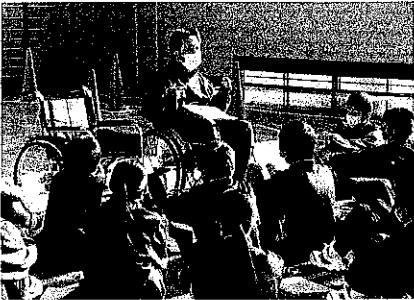


【資料3】

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書 No. 62

学 校 名	一宮市立萩原中学校	委 嘱 年 度	令和 3 年度
1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)			
<p>本校の教育目標は、『校訓「礼儀・感謝・責任」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましく「生きる力」をもった生徒を育成する』である。そして、本年度の重点努力目標では、豊かな心の育成を目指す中で「福祉体験や職場体験、ボランティア体験活動に取り組む」などの目標をたて努力してきた。本校は一宮市社会福祉推進校の委嘱を受け26年目となる。一昨年度までは、これまでの経験と反省を踏まえて、「福祉実践教室」や「ボランティア活動」など、継続的な活動に取り組んできたが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどのボランティア活動が中止となった。そのため、限られた中での活動ではあったが、年間を通して福祉教育の充実を図っていった。</p> <p>○年間通しての美化活動やあいさつ運動 ○全校での「道德教育」や「人権教育」についての取組 ○コロナ禍における学校行事「体育祭」や「合唱コンクール」の取組 ○資源回収(年2回) など</p>			
2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)			
(1) 花いっぱい運動			
<p>潤いのある学校生活の環境作りの一環として、季節の花を花壇で育てたり、校門付近や各学年の昇降口などにプランターを設置したりした。また、学校行事のときには、会場やグラウンドを花で飾った。</p> <p>近年、冬から春にかけて、地域の方から寄付していただいたチューリップの球根を、1年生が一人1つのプランターに植え卒業式や次年度の入学式に向け取組を実施している。</p>			
11月15日(月) 企画委員会及び職員会議で実施内容の検討			
11月22日(月) 学年会議で検討し活動計画の検討・確認			
12月初旬 朝のSTに1年生各クラスでプランター作り実施			
(2) 人権読み聞かせ週間			
<p>毎年、PTAのボランティアの方々に協力を依頼し「読み聞かせ」を行い、人権に関わる本を紹介したり、本に興味をもたせたりもする。読書を通じて豊かな感性、情操や思考力を育てていきたいと考えている。また、この期間に講師の方をお招きし、人権講演会も合わせて行い人権教育の充実を図っている。</p>			
9月～10月 読み聞かせボランティア募集			
11月中旬 ボランティアの方々との打合せ			
11月29日(月)～			
12月 3日(金)全学年各クラスで人権読み聞かせ実施			
(3) 福祉実践教室(1年生)			
9月 6日(月) 職員会議で検討する。			
10月 4日(月) 学年会議で検討し活動計画を立てる。			
10月25日(月) 1限に「福祉実践教室」についてオリエンテーションを行い、福祉に関する資料を読む。			
11月19日(金) 「福祉」や「ボランティア」について、パソコン室と図書館を使用し、調べ学習を行う。			
12月 1日(水) 社会福祉実践教室・レポートまとめ			
手話(音楽室) 車椅子(屋内運動場) 点字(第2理科室)			
ガイドヘルプ(学習室、北舎・中舎) 高齢者疑似体験(1-1)			
3. 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、「ボランティア活動」など例年通り実施することができない状況下であったが、例年とは違う活動を充実させることで社会福祉への関心を高め活動へつなげることができた。また、この一年を通して、生徒たちは人と人とのつながりの大切さや関わり方などを、行事や活動の中から多く学ぶことができたと思う。今後もさらに幅広く発展させ、生徒の豊かな心の育成を続けていきたい。</p>			

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋中学校	学校No.	63
<p>1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校では、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、心身ともに健康で思いやりとたくましく生きる力をもつ生徒の育成を目指している。その一環として、福祉関係では、地域の介護福祉施設や授産施設との連携を図るなど、地域に密着したボランティア活動を意欲的に進めている。</p>			
<p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>○ 福祉実践教室（1年生）</p> <p>毎年1年生が身体障がい者の方と、福祉について学習を行う。車イス・手話・点字・視覚障がい者ガイドヘルプ等の経験したことがないことに対して積極的に学ぶ姿が見られ、障がいのある方への理解を深めることができた。総合の時間などで、福祉の学習を行い、その学習内容を掲示するための掲示板を助成金で購入し、利用した。</p> <p>○ 授産施設「かすみ草」へのボランティア参加</p> <p>校区内にある「かすみ草」では、地域連携行事として毎月第2土曜日に「土曜ミニ朝市」が、毎月第4土曜日に「レクリエーションボランティア」が開催されている。例年、喫茶・みたらし団子・リサイクルバザー・野菜販売等の手伝いを行い、利用者と一緒にゴロバレーやボールカーリングを行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>			
			
<p>○ 「おもちゃ図書館なかよし」への参加</p> <p>毎年夏季休業中に、丹陽校区内にある「おもちゃ図書館なかよし」へ赴き、おもちゃ図書館の活動の体験を行ってきている。子供たちが楽しく遊べるように遊具を作ったり、子供たちと一緒に遊んだり、折り紙を折ったりして、子供たちとの交流を深める。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p> <p>○ 「青少年等ボランティア福祉体験事業」への参加</p> <p>校区内にある施設「あすか」へ赴き、利用者の方とコミュニケーションをとったり、職員の方の仕事を手伝ったりして、デイサービス施設の活動の体験を行う。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>			
<p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>毎年行われる地域の各施設へのボランティアでは上級生を中心に積極的な参加があるが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のためすべて中止となった。コロナの状況が落ち着き、ボランティアの参加ができるようになったら、積極的に参加させたい。また、福祉に関する学習は継続的に行っていきたい。</p>			

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成東部中学校	学校No.	64
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目 標 障害のある人々や高齢者との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活を送ることができるようにする。</p> <p>計 画 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒で福祉実践教室に取り組む。 ・生徒会を中心にアルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に積極的に取り組む。 ・地域の敬老会にボランティアとして参加し、高齢者との交流を図る。 </p> <p>推進体制 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室は、福祉教育担当教師を中心に全校体制で進める。 ・アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金は、生徒会活動担当教師が中心となって進める。 ・その他、ボランティア活動は、福祉担当教員が中心となり、他の教職員の協力を得て進める。 </p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ボランティア活動への参加・・・・・・・・・・・・・・8月19日 ・敬老会へのボランティア参加・・・・・・・・・・・・・・中止 ・福祉実践教室・・・・・・・・・・・・・・11月11日 ・生徒会による赤い羽根の共同募金・・・・・・・・・・・・11月16日～11月18日 ・全校生徒によるアルミ缶エコキャップ回収・・・・・・・・毎月3日間 ・あいさつ運動へ参加・・・・・・・・・・・・・・毎月第3月曜日 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に取り組むことで、社会貢献に対する生徒の意識が高まった。 ・あいさつ運動に参加し、募金同様社会貢献に対する生徒の意識が高まった。 ・今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、上記に記した活動のうち、昨年度より実施できたものが増え、福祉関係に関する学習ができたことが大きい。限られた時間と限られた場所で実施したため、十分とは言えないが、福祉に関する学習をする時間の確保ができたことはうれしい限りである。 来年度も、感染防止策をとりながら、また、市内の感染状況を鑑みながら、ボランティア活動にも参加する機会を増やしていきたい。 			

令和3年度 一宮社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大和南中学校	委嘱年度	令和3年度	No.65
-----	------------	------	-------	-------

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、校訓である「至誠」「自律」「敬愛」の心の育成をめざし、教師・生徒相互の信頼を深め、人間性豊かな生徒を育成するための様々な活動を行っている。前年度に引き続き、社会福祉への関心を深め、ボランティア精神を養い、実践力を身につけさせる活動を進めた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) ボランティア委員会による校内活動

○ボランティア委員による、清掃活動、花壇・プランターに水やりを行う活動を年間通して実施。委員会の時間に校内の花壇の整備、グラウンドの草むしりや資源回収などを実施。



(2) 社会福祉に対する関心・理解を深める活動

○福祉実践教室

手話（1年）点字（2年）の体験学習を行った。講師の方の説明を熱心に聞き、真剣な態度で体験に取り組むことができた。体験後の生徒の感想として、「手話は、表情や口の動きが大事だということを知った」「物を落とした時など、肩をトントンと叩いて伝えてあげたい」「白杖を持っている人や、信号や電車などで困っていたら積極的に声をかけ、できることをしたい。」というような感想が多くあり、生徒たちにとって貴重な体験の場となった。

○青少年ボランティア福祉体験学習

夏休みに「高齢者福祉施設新和楽荘」「障害福祉サービス事業所だいち」「障害福祉サービスコスモス」のボランティア活動に参加した。体験後の生徒の感想として「この体験をいかして人にやさしく接したり挨拶をたくさんしたり、困っている人を手助けしていきたい。」「社会の心の壁がなくなるといいと思った。」「体験活動を、自分の周りにいる人に伝えていきたい。」という感想が見られました。



○募金活動など

生徒会活動の一環として「赤い羽根共同募金」「緑の募金」の募金活動に参加した。活動を周知させるための呼びかけの効果もあり、多くの生徒の協力を得ることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

各ボランティア活動には、多くの生徒が自発的に希望し、参加することができた。学校全体として、今後も積極的にボランティア活動に対する関心を持ち、理解を深められるように働きかけをしていきたい。

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第一中学校	学校No.	66
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 福祉にかかわるさまざまな活動の中で、施設利用者やその運営に携わる方々との交流やボランティア活動を通し、共に歩むことの心構えや自分にできることを考える力を身につける。 ・ 計画 ボランティア活動、福祉実践教室などを行う。 ・ 推進体制 有志参加者を募り、各計画を推進する。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア福祉体験学習 8/3、8/4、8/5 社会福祉施設でのボランティア活動 アルメゾンみづほ、朝日荘、きそがわ作業所の3施設へ、9名の生徒が参加した。 ・ 赤い羽根共同募金への参加 10月 生徒会執行部を中心に全校生徒、職員に声をかけ、募金を集めた。 ・ 福祉実践教室 12/10 1年生生徒を対象に、車椅子・点字・手話・視覚障がい者ガイドヘルプ ・ 高齢者疑似体験・要約筆記・認知症理解の体験活動を行った。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動を通し、障がいのある方々や施設の方々と交流することで、それぞれの方々が生きがいをもって生活している姿を見ることができた。 ・ 福祉実践教室での体験を通して、相手のことを考え、自分たちにできることを考え、主体的に行動していこうとする心を育むことができた。 ・ 今後も意欲的により多くの生徒が活動に参加できるよう、福祉活動への参加への継続を促していきたい。 			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第二中学校	学校No.	67
-------	-------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目 標

- ア 社会には様々な立場の人がいることを知り、その生き方を学ぶことで生きるための目標をもち、心豊かな生活を送ることができるようにする。
- イ 募金活動に積極的に取り組ませることで、社会のため自分ができることに気付かせる。

(2) 計 画

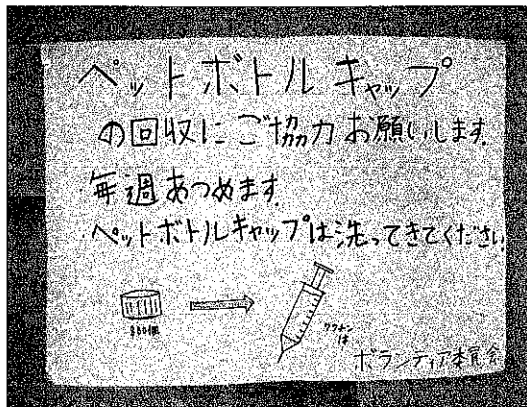
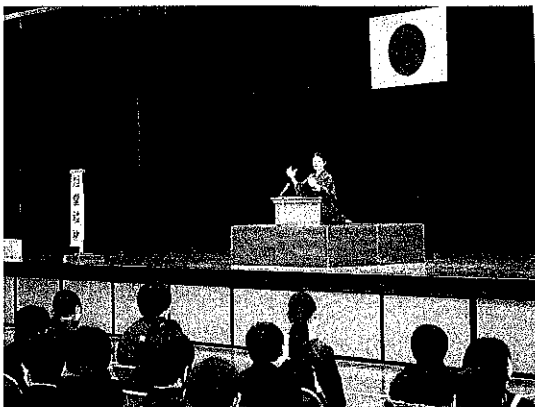
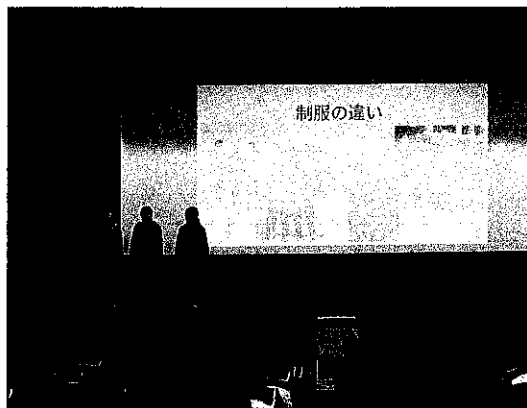
- ア 様々な人生経験を積んだ講師を招き、教育講演会を行う。
- イ ボランティア委員会を中心に校内・校外で募金活動に積極的に取り組む。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- (1) 緑の募金（校内）…………… 5月 7日（金）～ 5月11日（火）
- (2) 人権集会…………… 11月30日（火）
- (3) 教育講演会…………… 12月20日（月）
- (4) エコキャップ回収活動…………… 通年

3 福祉教育の成果と今後の課題

- ・各種のボランティア活動や講演会を通して、「共に生きる」という気持ちを高めることができた。また、自分にできることを考えるよい機会となった。
- ・ボランティア活動に積極的に取り組む生徒がとても多い。引き続き、将来自ら進んで福祉活動に参加できる生徒の育成を目指していきたい。



令和 3 年度 一宮社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第三中学校	No	6 8
1	<p>福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>今年度はコロナ禍のため例年のように校外での活動は望めないで、「身近な生活で周りに対する社会貢献」を目標に設定して取り組むことにした。</p> <p>生徒会や福祉委員会、生活委員会、ボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画し、実践を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。 ○家庭や、学級や、学校等で自分から人の喜ぶことを行い、それを通して、福祉に対する意識向上をはかる。 		
2	<p>福祉教育の具体的活動の内容（主な活動の記録）</p> <p>4月 前年度からの係の引継ぎ、および年間の活動計画を作成した。</p> <p>6月 生徒会主催で福祉委員の協力でアルミ缶回収活動を行う（5日間）</p> <p>7月 ユニセフの募金活動について福祉委員が資料をもって呼びかけた。</p> <p>10月 小中連携での挨拶運動をする。 小信中島小学校に生徒会執行部と係の教師2名と出向き行う。 開明小学校に生徒会執行部と係の教師2名と出向き行う。</p> <p>福祉実践教室を1年生が手話・点字・認知症理解に分かれて体験をする。</p> <p>11月 福祉委員が挨拶運動もかねて行い、ユニセフ募金への協力（3日間） 福祉委員が挨拶運動もかねて行い、赤い羽根共同募金への協力(3日間)</p> <p>12月 生徒会主催で福祉委員の協力でアルミ缶回収活動を行う（5日間）</p> <p>1月 1年生のキャリア教育の一環の「プロフェッショナルへの道」と言う行事で、福祉・看護の分野の話聞く。</p> <p>2月 生徒会主催で福祉委員の協力でアルミ缶回収活動を行う（5日間）</p> <p>通年 3年生の有志が挨拶運動を行う。 生活委員が挨拶運動を行う。</p>		
3	<p>福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>本年度も社会福祉推進校の委嘱を継続して受けることができたものの、コロナ禍のため福祉施設や地域でのボランティアの募集は僅かであったが、参加者は積極的に行えてよかった。昨年度に引き続き生徒会のアルミ缶回収については、クラス単位で目標を事前に決めて、達成率の高かったクラスを表彰する等、工夫することでアルミ缶回収に対する意識が上がったのはとても良かった。加えて、回収時に本年度も生徒会執行部に福祉委員が手伝うことで、余裕をもって回収とチェック活動ができ良かった。 昨年度中止となった福祉実践活動も復活することができてよかった。</p>		

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立木曾川中学校	学校 No.	69
-----	------------	--------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、「思考・実行・協力」（三考）の校訓のもと、ボランティア活動を位置づけ、福祉教育を計画的に進めている。社会福祉に関する実践的な学習の機会を通して、福祉への理解と関心を高め、ともに生きる姿勢を育てるとともに実践力の向上を図り、豊かな心の育成に取り組んでいる。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 社会福祉活動に対する関心を深め、意識を高める活動

① 福祉実践教室

1年生全員が、手話・点字・要約筆記・車椅子体験・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験のいずれかの活動を行った。講師の方の説明を聞き、真剣な眼差しで体験活動に取り組む姿が多く見られた。体験活動後にはレポートを作成し、保護者会の時期に掲示することで、福祉に対する関心を高めた。

② 福祉に関するレポート作成

①に記述した通り、福祉実践教室での体験を踏まえ、1年生の総合的な学習の時間の中で、福祉に関するレポートを作成した。「生活の中のやさしさ」を探すというテーマで、身の回りのバリアフリーや工夫されていることについて調べ、福祉実践教室で学んだことや感想をまとめて、保護者会の時期に掲示した。助成金は、レポート作成時に使用したカラーペンやコピー用紙、レポート掲示・片付け時に使用したワッポンなどの購入費として活用した。

③ 生徒会による活動

年間を通した活動として、エコ委員会を中心にペットボトルキャップの収集活動を行い、エコキャップの用途を伝えることで発展途上国が抱える課題への関心を高めた。活動を周知させるための呼びかけの効果もあり、多くの生徒の協力を得ることができた。

④ 人権集会の開催

全国的な人権週間に合わせて本校でも「人権週間」を設け、人権について考えた。人権週間には、人権に関する作文の朗読を生徒会によって行い、感想を書くことで、人権に対する関心を高めた。

(2) 地域との連携を図る活動

青少年ボランティア福祉体験学習事業、保育園訪問（2年生）、職場体験学習（2年生）、その他自主的なボランティア活動を例年行っているが、今年度は青少年ボランティア福祉体験学習のみの実施となった。来年度可能であれば、他のボランティア活動も実施予定。

3 福祉教育の成果と今後の課題

主に福祉実践教室やレポート作成を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、生徒たちの福祉に対する関心を高め、視野を広げることができた。また、地域の行事にボランティアとして参加したいという意欲を示す生徒は増えており、今年度唯一行った青少年ボランティア福祉体験学習事業においても、多くの生徒の参加希望があったため、来年度ボランティアの募集があれば多くの生徒の参加が期待できる。

今後も活動の機会を多く設定し、学校生活や地域に根ざした日常的なボランティア活動への取り組みを継続していきたい。

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	大成中学校	学校No.	
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校の教育理念でもある「報恩感謝」を様々な福祉活動を通じて体得することを目標にしています。 また在学中だけでなく卒業後の人生においてもいろいろな場面で役立ててほしいと考えています。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 東日本大震災復興支援活動 「福島ひまわり里親プロジェクト」参加・ エコキャップ回収運動（文化祭で集計結果発表）・ 赤い羽根募金活動参加・ 校内美化運動 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>成果 様々な社会活動を通じて生徒の意識向上・心構えに好影響を与えている また上記活動は数年間にわたり行い、学校の伝統として認知されつつある。</p> <p>今後の課題 活動が形式的にならないか注意が必要。 また今年度はコロナ禍のため大幅に制限され生徒の安全性の担保等活動自体が難しかった。今後もしばらくは影響があると思われるので企画の変更・見直しも必要と思われる</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

福島ひまわり里親プロジェクト

プロジェクト誕生
2011年3月11日
東日本大震災発生

No!
風評被害によって
観光、農産物が大打撃
福祉作業所の仕事も激減
お菓子の箱折作業

自分たちには何かできないか...

ひまわりは、どうだろう?
チームふくしま



このプロジェクトで
できること

雇用対策
種の袋詰や発送作業
→福祉作業所の仕事になる!



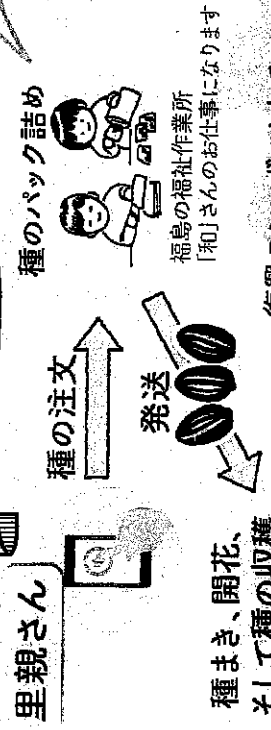
絆づくり

全国でひまわりを育て、種を福島に送る
→全国と福島の交流+観光促進



防災教育
風化対策
震災を風化させず、
経験を未来へ伝える。

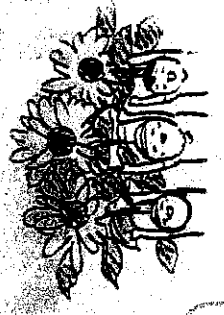
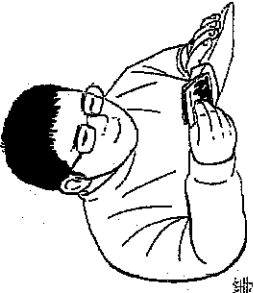
プロジェクトの流れ



福祉作業所
NPO 法人 **和**
なごみ

福島県二本松市の障がい者
通所施設です。福島ひまわり
里親プロジェクトでは「きずな
の種セット」等の商品製造を
担っています。

手紙折り、イラスト描き等
得意分野の作業をします



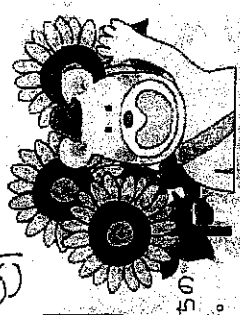
復興のシンボルとして
福島県内で開花
Fukushima

小中高校、大学、観光地、
行政、企業、団体などへ配布

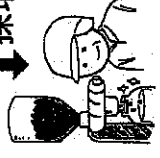


マスコットキャラクター
たびくん誕生

たびくまと、遠くに住む友だちの
心のつながりを描いた絵本。



採取 さらに



搾油



県内を走る
バスの燃料に

福島の福祉作業所
お仕事になります

実績

これまでの活動参加人数・団体数
★50万人以上
★累計5,000校以上の学校

2012年度から2019年度までに福島県内で
種子を無料配布した数:25万袋以上

※全国の里親さんから届いた種子は、福島県内の
福祉作業所で袋詰めし配布。

公民や道徳教育の資料集でも紹介

ひまわり結婚式

福島県田村市大越町牧
野ひまわり会が育てる
ひまわり畑での結婚式。
2013~2019年までに
20組が挙式!



活動詳細は
こちら!



2013年12月 「子どもたちの"こころを育む活動"]奨励賞(パナソニック教育財団)

2014年3月 「ふくしまからはじめよう」情熱大賞

2014年12月 Revive Japan Cup2014 ライフスタイル部門「新しい東北」復興まちづくり 入選

2015年11月 「あしたのまち・くらしづくり活動賞」主催者賞(あしたの日本を創る協会・日本放送協会・読売新聞東京本社)

2015年12月 「第3回グッドライフアワード」環境大臣グッドライフ特別賞

2016年11月 「第47回社会貢献者表彰」社会貢献の功績(公益財団法人社会貢献支援財団)

2017年11月 「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2017 企業賞 損保ジャパン日本興亜賞(復興庁「新しい東北」官民連携推進協議会)

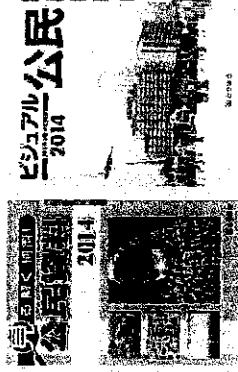
2017年12月 「第3回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)」特別賞(福島民報社)

2018年3月 「第11回未来を強くする子育てプロジェクト」子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞(住友生命保険相互会社)

2018年7月 「福島県家庭教育応援企業」認定(福島県教育庁東北教育事務所)

2018年11月 「平成30年度秋季善行表彰」(一般社団法人日本善行会)

プロジェクトの受賞歴



マスコミ紹介歴

福島民報、福島民友新聞、いわき民報新聞、あぶくま時報、夕刊ふるとの、北部日報、マメタイムス、室蘭民報、山形新聞、河北新報、岩手日報、市民タイムス、長野市民新聞、信濃毎日新聞、須坂新聞、長野日報、テレビ信州、abn長野朝日放送、長野放送、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞、東京新聞、瀬戸内タイムス、千葉日報、タウンニュース、茨城新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井、福井新聞、東日新聞、三重新聞、あべや市民新聞、京都新聞、洛タイ新報、南日本新聞、神戸新聞、山陽新聞、山陽日日新聞、山陰中央新報、日本海新聞、東海新報、中日新聞、中国新聞、静岡新聞、城島新報、島根日日新聞、佐賀新聞、熊本日日新聞、くまもと経済新聞、大分合同新聞、南九州新聞、みやざき中央新聞、長崎新聞、夕刊デイリー新聞、琉球新報、沖縄タイムス、農業共済新聞、通信興業新聞、日本教育新聞、NHK福島放送局、NHK福島ラジオ、NHK福井放送局、NHK福岡放送局、NHK、ラジオ福島、FM-POCO、レインボータウンFM、NHKラジオ、Kビジョン、FMのや、RNC西日本放送、エフエムふくやま、福島テレビ、福島中央テレビ、テレビ福島、福島放送、福井放送、フジテレビ、千葉テレビ、小谷村ケーブルテレビ、テレビ松本、山口朝日放送、だいいちテレビ、YBCU山形放送、月刊PHP、The Japan Times、旬刊 旅行新聞、内外教育、じゃらん、致知、観光会議、オレンジページ、季刊地域

学校授業副読本・教諭向け書籍に掲載

◆見る・解く・納得!公民資料 2014-2015

◆ビジュアル公民 2014-2015

(いずれも東京法令出版)

●日本の第一福島は「福島はまわり星プロジェクト」... (Text describing the project's impact on disaster relief and education.)



◆ふくしま道徳教育資料集 (2015)

「ひまわり」(小学校高学年向け) 震災をきっかけに生まれた福井県と福島の子どもの物語。

1) 福島の復興の手助けをするヒマワリ栽培

Information and photos related to the 'Sunflower Cultivation' project for disaster relief.

Information about 'Science Experiment Textbooks' (理科実験の教科書).

◆新版 授業づくりの教科書

理科実験の教科書 3年(2020)(さくら社)

当プロジェクトのひまわりの種を用いた授業づくりのページを長野県の「里親さん」で長野県公立小学校教諭の酒井啓喜先生が執筆。